

失われた心を慰めて下さる予科練戦没者慰霊碑  
の建立は、誠に有意義なものと思います

甲飛八期 増田哲郎

弟 増田利雄（埼玉）

（甲飛十二期）

敗戦の混乱の為、ちりじりばらばらとなった戦友の消息を知る由もなく今回初めて同期の方のお目に掛かった次第です。思い浮かべますと、当時の身の鴻毛の軽さとは言うものの、兄がどんな生活をし、又どんな死に方をしたのかを知ることには生き残った遺族の願いでもあります。

終戦後個人で復員局を訪れ、当時の原簿を見せていただいた書類に依りますと、昭和十九年六月二十三日硫黄島発進ガム島に向け空輸中戦死とだけ知るのみにて、ア号作戦に参加し無限の怨をのんで南海に散ったものと思われまます。

この様にその最後を探し得た人はまだ良い方で、全然探し得ない遺族はどんなものかと割り切れない思いが致します。

・・・悪夢の様な大東亜戦争も終わり、平和が来たと言っても兄が今もって還らない以上は私の心に平和は還ってきません。この失われた心を慰めて下さる予科練戦没者慰霊碑の建立は、誠に有意義なものと思います。

に有意義なものと思います。

申し遅れましたが私は甲飛十二期、土浦二次の一人で同じく戦友の安否をいつも心に思っている者であります。

最後に会の発展とご親睦をお祈りして失礼致します。

（昭和四十二年四月五日号掲載）